郷土館発
アチック写真

アチックとは屋根裏という意味だそうです。渋沢敬三氏が、物置小屋の屋根裏に植物の押し葉や貝の化石などを集め始めたのは高校生の頃でした。明治の終わりごろのことです。大正には多くの仲間とともに民俗学的資料を集め、アチック・ミューゼアムを開設しました。ここには彼自身が撮影したものだけでなく、共同研究者が撮影した写真類も数多く保存されていました。このアチック写真を資料として活用するため、神奈川大学常民文化研究所が整理をしました。

一月、横浜市立歴史民俗資料館の学芸員の方がみえました。用件は、所持している写真を整理し、写真集の第五巻を完成させることができたので、その編集に協力してくれた方々へのお礼のためということでした。この写真集は、郷土館にも三冊寄贈してくださいましたが、ｗｅｂでも公開されています。以下のＵＲＬにアクセスしてみてください。

http://atticblog.jominken.kanagawa-u.ac.jp/pdf/publication_vol5.pdf

奥三河地方は、古くから駄馬を中心とする優良馬の産地として有名でした。明治以降は軍馬の生産も行われました。名倉駒と言われますが、鎌倉時代から戦国時代にかけて、現在の名倉だけでなく津具、豊根、富山を区域とした広大な郷が名倉郷であったことを考えると、奥三河のかなり広い地域で生産された馬が、この優良馬であったと思われます。

田口の馬市場（神奈川大学常民文化研究所提供）

この写真は、昭和八年の田口の馬市場の写真です。子馬の市場は明治時代に上津具で開かれてから、豊根、振草、武節、名倉などで行われましたが、その様子が画像として残されているのは少なく、貴重な写真です。

アチック写真には、昭和初期の北設楽郡人々の生活が実によく描かれています。それぞれの写真には、タイトルがつけられ整理されていますが、撮影から八十年ほど経っているため、撮影の場所や被写体が分からなくなってしまったものも数多くあります。神奈川大学常民文化研究所では、整理のための手がかりを求めています。確実な情報でなくても結構ですので、些細なことと考えずにお知らせいただきたいということです。

写真集は奥三河郷土館の講義室に置かれています。ぜひ一度御覧いただき、ご存知の情報がありましたら、郷土館にお知らせください。

（奥三河郷土館
館長　平松　博久）